「千葉豪雨」への対応

被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
一日も早く復旧復興が進むよう努めてまいります。



■10月5日、被災者支援の補正予算が成立！

●主な被災者支援

給付：災害見舞金、被災者生活再建支援金
直す：住宅応急修理（現物給付）
借りる：災害援護資金貸付
減免：市県民税、固定資産税、国民健康保険料など

※床上浸水の被災者の内、国の支援の対象外にあった半壊(床上10～100cm)のご家庭に対し、市として独自の半壊住家特別支援金(10万円)を給付することが決定しました!

お問い合わせ　市コールセンター　043-245-4894
中央区地域づくり支援課　043-221-2169



●被災がけの修復工事への助成も

これまで対象外であった高さ5mに満たない住宅が絡むがけ崩れの工事に対しても一部助成をすることが決定しました。工事費用の1/3を補助するもので、上限100万円です。



●市内のアンダーパス道路へ「エアー遮断機」を導入

浸水被害が起きたアンダーパス道路対策として、市管理の14ヵ所のうち遮断機がない10ヵ所に、(取組みを推進してきた)自動制御や遠隔操作が可能なエアー遮断機（右写真）を今年度中に設置をすることが決定しました。



■皆さまの声をお寄せ下さい！

千葉市では、路上の被災車両の撤去や浸水家屋の消毒、災害ゴミの回収や災害ボランティアの派遣など、発災当初に求められる施策は比較的早期に実施されたものの、依然として、必要な支援が十分に届いているとはいえません。「こんなことで困っている」との声がありましたら、引き続きお声をお寄せください。

左の写真は、「土のうが必要」との声を頂きお届けに。市内には複数ヵ所の土のうステーションがあります。ご活用ください。

MEMO

発災3日目以降、市内外のマンション住民からSOS（地下の電源設備が浸水し停電が長期化）が立て続けに寄せられました。即座に、市に同様の事例はないのか調査を依頼したところ、市内で十数棟の被害が判明。マンション被災者への支援が進みました。後日、「議員からの指摘が調査につながった」と伺いました。皆さまの声が行政を動かすことを実感しました。

写真：「国へマンション被害の実態を報告」（参議院議員会館にて）



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員　**酒井　伸二**
〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel.090-2910-3925
ホームページは「酒井伸二」で検索ください! http://www.facebook.com/sakai.cc　e-mail:sakai_chiba@outlook.jp

公明党千葉市議会議員団 議会報告　No.72　発行日 / 令和 8 年 10 月 16 日

さかい通信

2026 秋号



千葉市の副都心“蘇我の未来”を描く！

9月28日の酒井伸二の一般質問より

千葉駅周辺の「千葉都心」、海浜幕張駅周辺の「幕張新都心」、蘇我駅周辺の「蘇我副都心」の3都心からなる千葉市。第三の都心「蘇我」の発展が、千葉市の更なる魅力向上につながると考えます。

●20年来の課題解決を！

JR蘇我駅の東西自由通路へのエスカレーター、西口通路の屋根、東西を往来できる自転車用スロープの設置、更には千葉駅寄り北側改札口の新設は、私自身が市議会議員に初当選して以来20年、利用者の皆さまから幾度となく頂いてきた課題です。市からも**「十分に対応できていない」「利便性を向上させていく必要がある」**との答弁。

写真は、20年前に千葉市が策定した「JR蘇我駅周辺地区整備計画」に示された整備イメージ図ですが、未だ目に見える形での進展はありません。





●「千葉豪雨」で更なる課題が…

千葉豪雨で東口エレベーターの復旧見通しが立っていないほか、当日は約5,000人の駅滞留者が発生し、避難ルートの脆弱性が露呈。北側改札口の新設の必要性についても**「混雑緩和や災害時の避難場所への近接性が高まり必要性がある」**との答弁。

●羽田空港アクセス線（りんかい部ルート）は2030年開通

一方で…羽田空港アクセス線の開通に伴う整備効果の問いに**「羽田空港までの所要時間が短縮され、沿線地域の価値向上、企業立地の促進などに寄与し、整備効果は大きい」**との答弁。

かつて「相直に関する協議会」が示した効果分析では、総便益・最大一日5,200万円、沿線の商業販売額年間約75億円、沿線ゾーンの地価約385億円上昇、税収約6億円増などが示されています。アクセス線の開業に伴う効果も、一定程度見込まれるのでは?

●今こそ“蘇我のグランドデザイン”策定を！

以上に加え、毎年蘇我で開催される音楽フェス（10年目!）など、副都心蘇我の環境が大きく変わる中で、計画の全体像を示すよう求めたところ、「今後、施設計画案を作成をするとともに、利用者の利便性・快適性向上につながる計画の検討を進める」との答弁。

かつて「千葉駅周辺」「千葉市の海辺」のグランドデザイン策定を提案し、実現しました。今度は蘇我のグランドデザインです！



実際の質問の動画はこちら

令和8年 第3回 定例会 一般質問より

去る9月28日、一般質問に登壇しました。その概要をご報告致します。



【通告内容】

1. ビーチスポーツの振興について
2. 障がい者の在宅生活支援について
3. JR蘇我駅の再開発事業と利便性向上について (1面に掲載)
4. 南町宮崎町線の安全対策について

録画放映は
こちらから！→

ビーチスポーツの振興について

●“海辺のまち千葉市”の新たな魅力～ビーチスポーツで海辺をもっと元気に！





千葉市には、日本一の人工海浜をはじめ、海辺という大きな財産があります。本年6月、いなげの浜で開催された「ジャパンビーチゲームズフェスティバル2026」では、ビーチバレーやビーチサッカーだけでなく、スラックライン、テニス、バドミントン、フレスコボール、レスリング、フライングディスクなど、十数種目が行われました。砂浜だからこそ楽しめるスポーツの多彩さに、改めて可能性を感じました。

【質問要旨】

◆千葉市はビーチスポーツをどのように位置づけているのか
◆ジャパンビーチゲームズフェスティバルの開催状況の推移について
◆市内で活動するビーチスポーツ団体の活動状況と連携について

市からは「ビーチスポーツを千葉市のアイデンティティである海辺を活用したスポーツとして、魅力発信やにぎわいの創出につながるものと位置づけている」との答弁がありました。また、フェスティバルも、約2万人が来場する規模に成長しているとも。

一方で、市内で活動する団体の把握や連携については更に取り組む余地があり、一層の取り組みを促したところ「今後、関係団体へのアンケートを通じて意見や要望を把握する」との答弁がありました。

スポーツは健康づくりだけでなく、人と人との交流や、まちの活力にもつながります。「海辺のまち・千葉市」だからこそできるビーチスポーツの振興。

将来的な専用施設の整備も含め、千葉の海辺のさらなる可能性を引き出していけるよう、引き続き取り組んでまいります。





※右の写真は、幕張JFA夢フィールド内にあるビーチサッカー専用ピッチ“カリオカ”。トップレベルのプレーを間近で見られるのも千葉市のストロングポイントと言えます。

障がい者の在宅生活支援について

●物価高から、障がいのある方の暮らしを守る～必要な支援を必要な人へ！

日々の暮らしを支える福祉サービスの中には、自治体が独自に実施している「地域生活支援事業」があります。

【質問要旨】

◆紙おむつの給付事業における物価高の影響について
◆「日常生活用具」の基準額の課題認識について
◆医療的ケア児者のための発電機・蓄電池の基準額のあり方について



きっかけは、実際の利用者の方からいただいた「物価高でおむつの値段が上がり、支給額で購入できる数量が減って困っている」との声でした。そこで、千葉市の制度が物価高によってどのような影響を受けているのか、主な県内他市との比較、更に日常生活用具の基準額についても質問しました。また、人工呼吸器や電気式たん吸引器などを使用する医療的ケア児者にとって、停電時の生命線となる発電機・蓄電池についても（事業開始からちょうど耐用年数を迎える時期にあることから）取り上げました。

重度障がい者向け蓄電池購入費用助成(主な政令市)

都市名	基準額(円)	都市名	基準額(円)
千葉市	60,000	浜松市	200,000
札幌市	93,500	名古屋市	65,000
新潟市	60,000	堺市	50,000
さいたま市	100,000	神戸市	65,000
横浜市	60,000	広島市	120,000
川崎市	80,000	福岡市	65,000
相模原市	80,000	熊本市	120,000
静岡市	200,000	平均	94,567

今回、おむつ給付は近接市（市原市）と差があることや、その他日常生活用具についても利用者から基準額見直しを求める声があがっていること、発電機・蓄電池は他の政令指定都市と比較して、もう一段の見直しが必要であることが確認できました。（上表参照）

もちろん、自治体によって制度や財政状況は異なります。しかしながら、物価高が続く中で、必要な福祉用具を必要なだけ確保できる環境をどう守るのかは、重要な課題です。

市からは、必要性や優先順位を整理しながら検討していくとの答弁がありました。

「制度がある」だけではなく、「今の暮らしの中で本当に使える制度になっているか」。

利用者の皆さまの声をもとに、引き続き改善を求めてまいります。



南町宮崎町線の安全対策について

●新しい道路を、より安全に～完成する道路だからこそ、安全を最後まで！

当該道路は、32年にわたる事業期間を経て、年内の供用開始が見込まれています。完成を喜ぶ声の一方で、工事が進み実際の道路形状が見えてくる中で、安全面に不安を抱く声も頂きました。特に、市道仁戸名町16号線との交差点手前、約100メートルの区間には複数の生活道路が接続しており、生活道路から本線に出る際、本線を走る車両との接触に不安を感じるというものです。そこで、供用開始前に必要な安全対策を講じるよう、求めました。

市からは、本線を通行する車両の速度を抑制する対策が必要との認識が示され、**「カラー舗装、ドットラインによる路面標示を供用前に実施する」「供用後も必要に応じて追加の対策を検討していく」**との答弁。

今後も、実際の交通状況と地域の声をしっかり確認しながら、安全対策を求めてまいります。

